

(様式2)

## 議員行政視察報告書

議員名	皆川 ゆきたけ
視察地	福岡県福岡市
視察年月日	令和6年1月15日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
ワンストップ型母子支援拠点施設整備について	
■調査目的 先進事例を行政事務事業の参考とするため、思いがけない妊娠の不安や悩みを一緒に考えサポートする専門施設、産前・産後母子支援センター『こももティエ』を視察した。	
■説明者 センター長 瀬里 徳子 氏 / コーディネーター 満生 襟可 氏	
■概要及び具体的内容について	
◎概要	
・妊娠 SOS 相談窓口・居住支援・アフターケア・妊婦訪問支援	
・令和2年10月 運営開始	
※福岡市より専用室を増やしてほしいと依頼があり、日本財団の支援金も活用。専用棟を建設することに。	
・令和5年3月 こももティエ専用棟 竣工（専用室1部屋→4部屋へ）	
・令和5年4月 福岡市妊産婦等相談・生活支援事業受託	
予期せぬ妊娠、若年、孤立、経済的不安や妊婦検診の未受診又は受診遅れ、パートナー	
・家庭の状況などから出産や育児の困難が予想される特定妊婦等を早期に把握し、不安や葛藤、生活等に関する相談を行うとともに、必要に応じて、安心して生活できる居場所	

の提供、養育方法や健康管理等の相談・助言・社会資源の活用支援、生活・就労等の支援まで、産前産後の継続的な支援を提供することによって、特定妊婦等の出産・子育てを支え、その家庭と児童の福祉の向上を図る事業。

#### ◎事業内容

##### ①妊娠 SOS 相談窓口

・全国から電話・メール・LINEで相談がくる。

##### ②居住支援

・居場所の提供(福岡市内在住者のみ)、産前産後を支援。

・入所期間は原則最長 6 ヶ月以内。

##### ③アフターケア

・居住支援を受け福岡市内限定でお子さんが1歳半を迎えるまで訪問・連絡・就業支援を行う。

・市外の場合、訪問はできないが状況確認等を行い、在住している地域の行政につなげる。

##### ④妊婦訪問支援

・福岡市内在住の方に対して、各区の行政からの訪問拒否や、依頼のあった妊婦の家へ訪問し、状況把握、相談対応、通院同行や情報提供を行う。

#### ◎業務内容

①コーディネーター 4名(保育士・助産師・社会福祉士・公認心理士)

②ケアワーカー 1名(助産師)

③臨床心理士 1名

#### ◎実績

##### ①相談窓口

令和 2 年10月 相談受付開始

令和 2 年度 新規相談件数 122 件

令和 4 年度 新規相談件数 554 件(1か月新規相談約 46 件)

・初回相談は半数以上が LINE 相談、その後メールや電話をすることも。

・相談者の年齢は、10・20 代合わせて約 70%。妊娠したかもしれない、妊娠したという相談内容が多い。男性からの相談もある。

## ②居住支援

- ・現在まで 14 名が利用、うち 6 名が初診 22 週以降。
- ・入所支援の利用者 11 名中 7 名養育、3 名特別養子縁組、1 名里親。
- ・養育を選択された 7 名中の退所先は、3 名が母子生活支援施設、2 名が地域生活、2 名が実家。

### ■調査の成果と所感について

相談は 24 時間 365 日全国どこからでも無料で電話・メール・LINE にて受け付けている。周りのサポートを受けられる方は利用しないが、本当に誰かの力を借りたい等様々な不安を抱えている方は一人で悩まず、どんな相談でもしてほしいと話されていた。

例えば、妊娠していることを誰にも相談できない、病院に行くお金がない、手続きが不安、子供を育てられない、中絶する時期を過ぎてしまったなど、まずは聞いてもらうだけでも安心できることもあると感じる。

一緒に今後のことを考え、産前から産後の子育て、生活・自立まで切れ目のない支援を実施している。

家賃と光熱水費が無料で産後2か月は食事の提供もある。また、高校生対象の性教育授業もこちらから連絡し行っているとのこと。母体の保護や養育支援のみならず、サポートチームもいる建物内にてそれぞれ生活できる部屋があり、共に寄り添いながら支援をしている。

予期せぬ妊娠や様々な事情で出産や育児をすることが難しいと感じている方をサポートできるような施設・相談窓口など、その後の自立まで行政も一体となって継続的に支援をしていくことの大切さを学ばせていただき、大変に有意義な視察となった。

(様式2)

## 議員行政視察報告書

議員名	皆川 ゆきたけ
視察地	福岡県久留米市
視察年月日	令和6年1月16日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
文化交流施設・久留米シティプラザの取組について	
<b>■調査目的</b> 本市においては、旭川市民文化会館の老朽化・建替え等が課題となっており、近年では市議会において大規模改修や建替えについて議論もされている。 平成28年に本市と同じように中心市街地の求心力の低下と施設設備の老朽化もあり中核市である久留米市が市民会館の建て替えを行った「久留米シティプラザ」について視察・調査を行った。	
<b>■説明者</b> 久留米市 市民文化部 久留米シティプラザ 担当次長 陣内 孝敏 氏 久留米市 市民文化部 久留米シティプラザ 課長補佐 末次 智 氏 久留米市 市民文化部 久留米シティプラザ 総務課主査 田中 元英 氏	
<b>■調査の概要及び具体的内容について</b> 久留米市は人口約30万人。旧久留米市と4町が平成16年に広域合併。 背景としては、市民会館の老朽化が課題となり、話題性のある鑑賞公演が開催できないことや、医療や高等教育機関が集積しながらも、学会等の受け皿となる施設が不足。平成20年には中核市へ移行し、平成23年に九州新幹線が開通したが、平成17年と21年に相次いで大規模な商業施設が閉店するなど、中心市街地の求心力が著しく低下していった。	

その後、これまでの諸課題を補完するホール機能とコンベンション機能を併せ持つ広域の文化・交流促進の中核施設を中心市街地に整備し、文化芸術の振興とまちなかの賑わい創出による中心市街地の活性化を図ろうと整備の方向性が示され、平成 23 年 2 月に旧市民会館から中心商店街隣へ移転建て替えを発表した。

#### ◎整備事業費

決算額は 177 億円、国庫補助金(暮らしにぎわい再生事業)が 41 億円、合併特例債 125.8 億円。合併特例債を使える期限が 10 年ということもあり、基本設計は平成 24 年 5 月～10 月、工事は平成 25 年 10 月～平成 28 年 1 月の約 28 か月とかなりの突貫工事で進められた。

実質負担金は 51 億円。合併があったからこそ合併特例債を使用し建てることができ、元々百貨店があった場所に再開発エリアと元々広場があった場所に全天候型の室内型広場を作り直した。

#### ◎基本理念

賑わいと憩いが調和する「文化」・「活力」の創造空間

#### ◎基本機能

- ・文化芸術振興の拠点
- ・広域交流促進の拠点
- ・賑わい交流の拠点

複合的な機能とすることにより文化振興や交流等の拠点施設として、その機能性を発揮している。

#### ◎施設の概要

- ・「ザ・グランドホール」

優れた音響性能を持つ音楽を主目的としたホールでクラシックやオペラ・ミュージカル等の高品質な舞台に対応でき座席数は 1,514 席。

- ・「久留米座」

演劇・日本の伝統芸能などにも対応でき座席数は 399 席。

その他茶道・能などの伝統芸能の稽古もできる和室やスタジオ・展示室また一階部分には全天候型の広場「六角堂広場」、大人気の絵本作家がプロデュースした「カタチの森」と呼ばれる子育て世代向けのワークショップなどがある。

また広域交流促進として MICE の積極的な誘致及び開催の支援を行っている。

#### ・プロモーション活動

2か月に1回、情報誌での施設紹介や SNS で施設の魅力やホールの音の聴き比べ動画を配信。駅からの案内動画も作成。

#### ◎施設稼働率の状況

コロナ前の令和元年度は、ザ・グランドホールの稼働率 86.4%、久留米座 54.8%、六角堂広場では 62.4%であるが、コロナの影響で令和2年度の稼働率としてホール系は 1/2 以下、広場は 1/3 にまで落ち込んだが、現在は徐々に回復傾向にあるものの、もう少し時間を要すると考えられる。

#### ◎来場者数

コロナの影響を受け大幅に減少しているが7年間の累計で約 282 万人。

#### ■調査の成果と所感について

久留米シティプラザの視察では、今後の参考となる多くの先進事例等について調査することができた。久留米市郊外や近隣市町村に大型ショッピングモールが出店することにより、中心市街地の商業力が弱体化し、まちなかの活性化に影響を与えているところは本市としても似たような状況にあると考える。

そのような中、各種演劇、大会やコンベンションに対応したホールや展示場、会議室などのほか、市民活動や多彩なイベントができる全天候型の広場などまちなかのイベントや市民活動を強化し周辺の商店街への賑わいの創出を図っている。

本市が進めている旭川市民文化会館の整備事業を進めていくうえで様々な機能を連携することにより賑わいの創出と中心市街地活性化も含め今回の視察は参考となるものであった。今後は本市における文化施設の規模や収支も含め、慎重な検討が必要になってくると考える。

(様式2)

## 議員行政視察報告書

議員名	皆川 ゆきたけ
視察地	宮崎県宮崎市
視察年月日	令和6年1月17日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
グリーンスローモビリティの活用について	
<b>■調査目的</b> 本市と同じ中核市である宮崎市（人口約39万7000人）は中心部にある商店街の売上げが低迷、且つ後継者不足による空き店舗の増加、平成17年には郊外に大型商業施設がオープンした影響もあり商店街としての機能が低下。 賑わいを取り戻すための手段として、駅周辺の回遊性向上と中心市街地活性化を図る手段として導入したグリーンスローモビリティ（通称ぐるっぴー）の導入により賑わいを創出したことについて概要及び現地を調査することを目的とし視察した。	
<b>■説明者</b> 宮崎市 都市整備部 まちづくり課 課長 増田 和弘 氏 宮崎市 都市整備部 まちづくり課 企画係長 日高 和哉 氏	
<b>■調査の概要及び具体的内容</b> ●グリスロの概要について	
車両（運行台数）eCOM-8 <sup>2</sup> （群馬県桐生市（株）シンクトゥギャザー製造）×2台 全長 4.93m×全幅 2m×全高 2.43m 最高速度 19km/h 定員（運転手含め）10人 運行エリア JR 宮崎駅より中心市街地周辺約 2.1 km	

運賃 100 円/便(小学生以下は無料、障がい者は 50 円/便)

運行時間 10:30~17:30(12 分間隔で運行) 34 便/日

令和 2 年 11 月 20 日から、まちなかの新たなツールとして運行スタート。しかしコロナの影響を受け、一時は運行の維持すら厳しい状態に。『ピンチをチャンスに』と新しい宮崎市のシンボルとして民間事業者をはじめとした皆さんと一緒に運行ルート等、様々見直す機会となったことで結果的に良かったとのこと。

中心市街地から県道高千穂通り→若草通り→広島通り→駅前通りを毎日12分間隔で、1周24分で2台にて土日も運行。台風など悪天候の際は運休する。

運賃の支払いは交通系 IC カードも使用可能、車いすの方も後部に昇降機が付いており運転手の協力に対応可能。電動小型バスタイプで運賃をいただいて、運行をスタートしたのは全国で東京都豊島区・沼津市に次いで3番目。

◎受電設備→運行終了後に宮崎交通車庫で点検後、保健所の車庫に充電設備があり、200V 電源にて一晩で充電完了。

◎インフラ整備(車両 2 台含め)→約 5800 万円(但し環境省等の補助金等の活用)

### ●実証調査

- ・令和元年 11/29~12/25(17 日間)
- ・10 時~18 時 (8時間運行×2 台 運賃 無料)
- ・利用者数 延べ 5,901 人(347.1 人/日、7.3 人/便)

### ●運行開始後の取組

「乗って楽しい」、「見て楽しい」、そして便利な「まちなか回遊モビリティ」をコンセプトに運行を開始。ターゲットを子供たちに絞り、子供たちが乗りたいと言え、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんが一緒に乗り買物等でもお金を使ってくれる。

「ぐるっぴー」を使ったイベント、運賃無料のチケットが付いたクーポンをお店でもらえるようにし、1周年の記念では臨時停留所を使い、まちなかイベントと連携。

### ●民間企業との連携

令和4年 11 月より企業版ふるさと納税の寄付増に向けた取組強化として、地域活性化とゼロカーボンとして営業を行い、企業版ふるさと納税も活用。各停留所の看板整備、駅前



の停留所も整備し移設。安全な乗り物として利用しやすい場所へ。

国土交通大臣表彰も受賞(R4.12.15)

### ●現在の利用状況

休日は特に満員で乗れないことが多く、平日も増え高校生など若者も利用するように。今年度は累計5万人を超える予定。運賃収入も2倍程度になると見込まれ、今後も「ぐるっぴー」の利点を生かした公民連携によるまちづくりを推進していくとのこと。

### ■調査の成果と所感について

宮崎市の視察では実際に乗車したが、開放的な車内で、常にお客さんがいる状態。

走行に関してはバスを優先し走行をしていたが、渋滞することもなくスムーズに走行していた。

窓やドアが開放的な分、前にバスやトラックが走行している時など、排気ガスが入ってくるのを感じ、その点は宮崎市としても課題であると話されていた。

宮崎市はこれからもグリスロを中心市街地活性化のツールとして生かしていくとのこと、今後も様々な企業と連携しグリーンスローモビリティをいかしたまちづくりとして展開していくとの話もあり、本市でも効果的で地域に根付いたモビリティとして是非、実証実験を行なっていくべきと強く感じた。

財源等今後、慎重な検討も必要となるが今後の本市における買物公園も含めた、中心市街地活性化や地域公共交通を検討していくうえで、有意義な議員視察となった。